



人流ビッグデータによる先進過疎地・庄原の潜在需要の発掘実証

庄原商工会議所：本平正宏、平田貴則 備北交通株式会社：山根英徳、河野文彦
呉工業高等専門学校：神田佑亮 株式会社長大：河合晃太郎、船田尚吾

1.KLA（KDDI Location Analyzer）による分析

(1)人流ビッグデータ（KLA）の概要

■概要

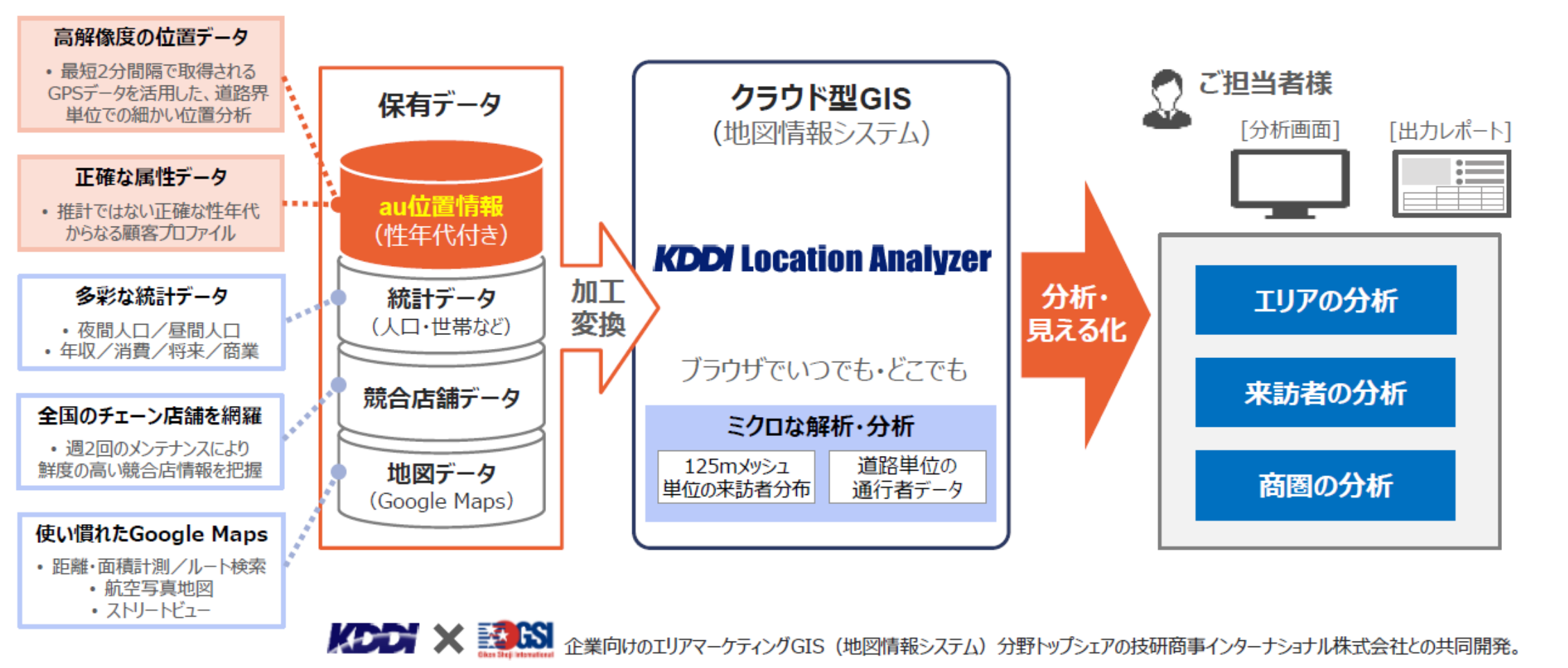
- ・個別同意を得たauスマートフォンユーザーの移動履歴データ
- ・GPS測位を利用しており、位置精度誤差が数十mと高い
- ・最新データが数日後には利用可能でリアルタイム性が高い

■データの概要

- ・分析結果の人数は、H27国勢調査における市区町村ごとの性年代別人口を用いて**拡大推計された人数**。
- ・指定した施設（**ジオフェンスを自由に設定可能**）への来訪者の人数や属性を集計。
- ・直近1ヶ月の夜間（22～29時）の最頻滞在地を居住地（推定居住地）としている。

庄原のポテンシャルのビジュアル化にトライ

■KDDI Location Analyzerについて（マニュアルより抜粋）

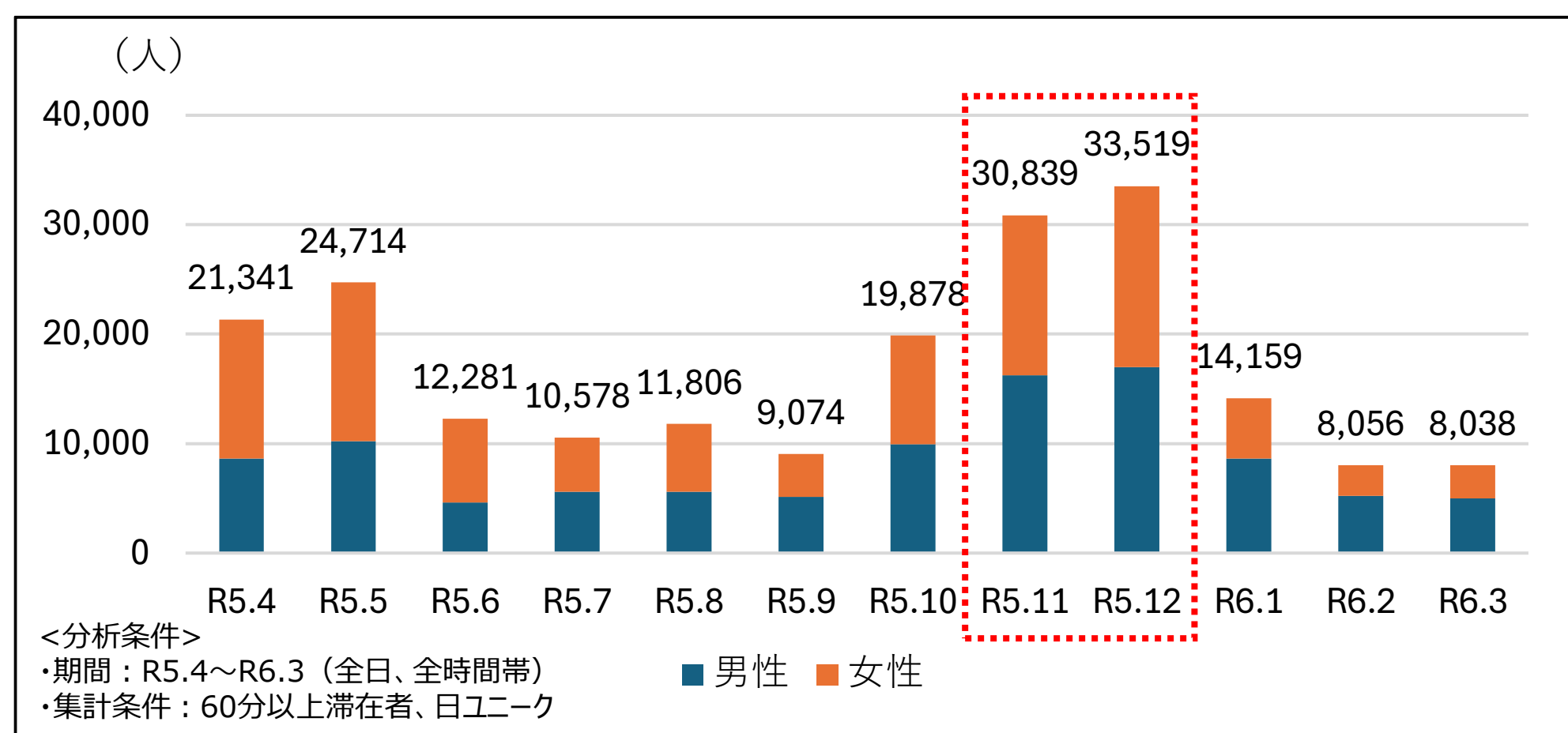


(2)定点モニタリング

■月別の定点モニタリング（備北丘陵公園の来訪者数）

- ・R5.4～R6.3の1年間について、KLAを用いて月別の来訪者数をモニタリング。
- ・イルミネーション等のイベントを実施している11～12月の来訪者数が多いことを確認。

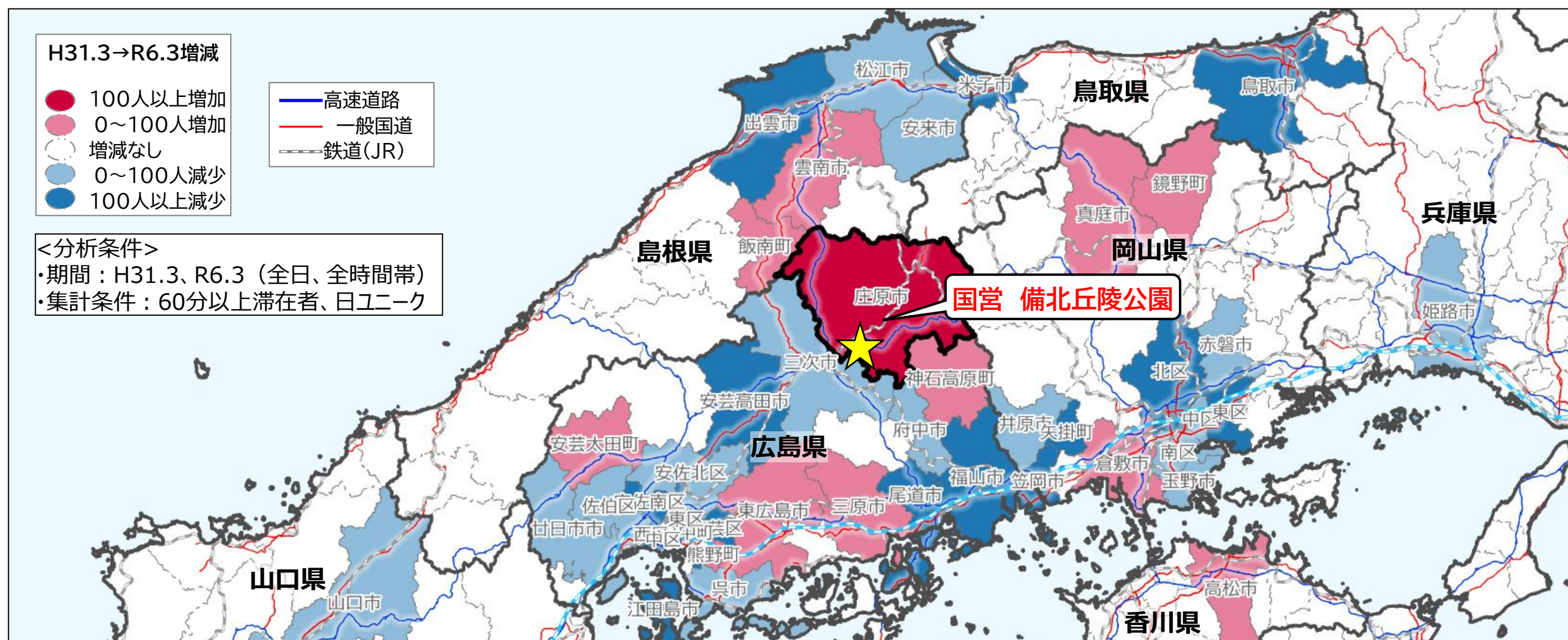
国営備北丘陵公園 月別来訪者数(R5.4～R6.3)



■コロナ前後における来訪者の変化分析（居住地）

- ・コロナ後（R6.3）ではコロナ前（H31.3）と比較して、他県からの来訪者が減少。
- ・他県からの客足が完全に戻っていないため、それらの観光客に対するキャンペーン等の集客・広報施策の強化による集客数増加の可能性。

国営備北丘陵公園への来訪者の居住地(コロナ前後の比較)



▲備北丘陵公園でのイルミネーション（出典：備北丘陵公園HP）

注1)auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。
注2)データ提供元 データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

(3)ピンポイント分析

■“東城町お通り”来訪者のピンポイント分析

- ・“東城町お通り”は400年以上続く伝統文化行事で多くの観光客が来訪。コロナ禍により中止が続いたが、令和4年は久しぶりの開催。
- ・令和4年11月に開催されたお通りに庄原市の内外から観光客が来訪。滞在時間30分程度の短時間滞在の観光客が散見。
⇒祭りを契機とした来訪で地域に長時間滞在（食事や買い物等）してもらう仕組み作りが必要。

“東城町お通り”の来訪者の居住地・滞在時間(R4.11.3)

滞在時間	兵庫県		島根県		岡山県				
	神戸市垂水区	神戸市西区	松江市	邑智郡美郷町	岡山市中区	津山市	笠岡市	高梁市	新見市
15分以上	28	32	106	28	142	28	28	106	834
30分以上	28	0	106	28	78	28	28	75	745
60分以上	0	0	106	0	78	28	28	75	224

60分以上の長時間滞在する観光客は少数

滞在時間	広島県															山口県
	広島市東区	広島市南区	広島市西区	広島市安佐南区	広島市安佐北区	広島市安芸区	広島市佐伯区	呉市	竹原市	三原市	福山市	府中市	三次市	庄原市	東広島市	廿日市
15分以上	90	77	80	44	119	43	24	85	56	60	650	83	102	2,044	54	73
30分以上	90	53	80	44	119	43	24	85	56	60	559	83	102	1,638	54	73
60分以上	90	53	80	44	119	43	24	85	56	32	403	55	102	1,526	33	73

“東城町お通り”の様子



東城町に400年以上続く伝統文化行事で、現在はお通り保存振興会による例年趣向を凝らしたイベントとしてのお通りとして大名行列、武者行列、母衣行列、華童子（はなわらべ）からなる行列を組み勇壮・華やかな時代絵巻として毎年十一月初旬に総勢約200人が市街地を練り歩く。
※出典：庄原市HP

注1)auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。
注2)データ提供元 データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

2.庄原MaaS検討協議会

(1)取り組みの経緯

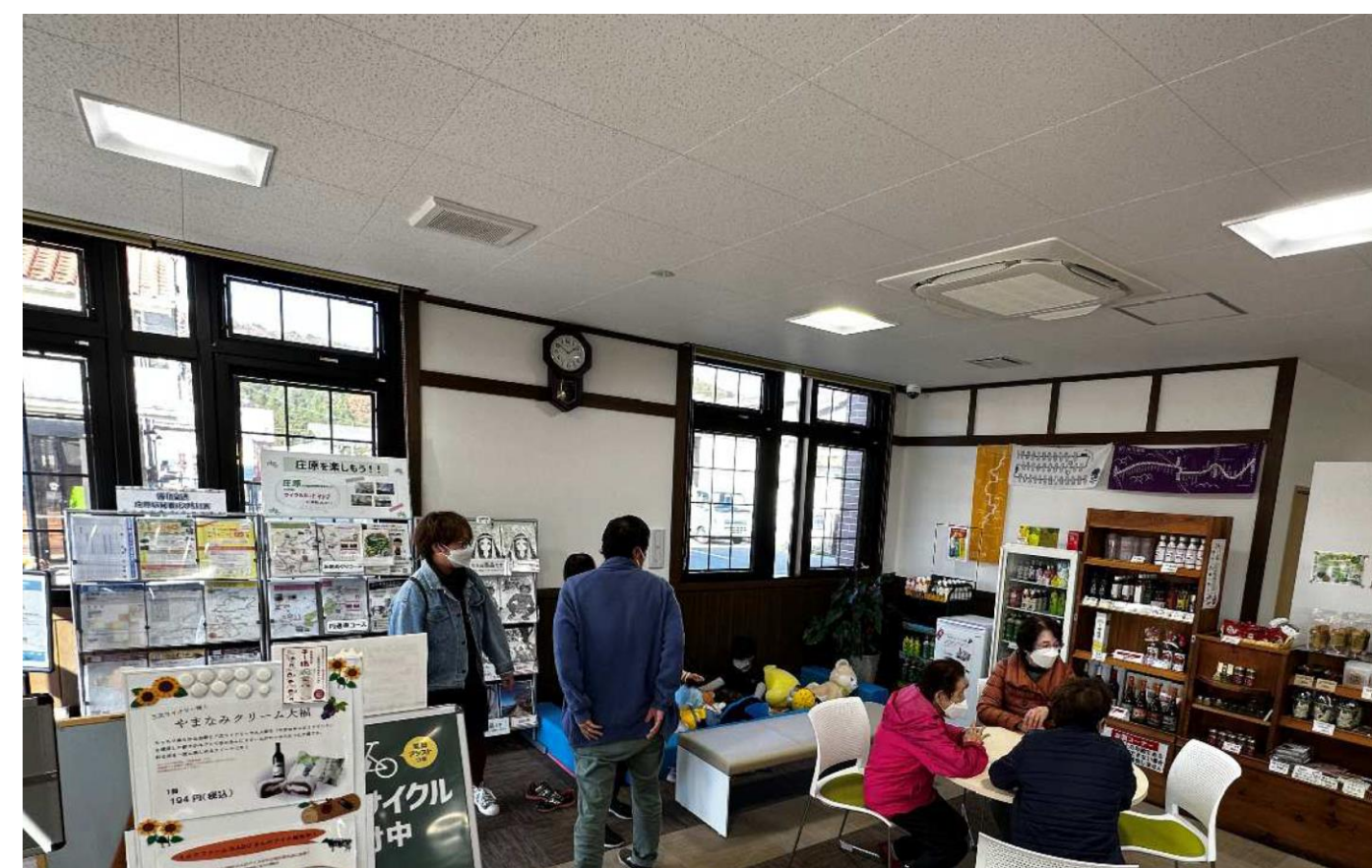
過疎地の課題先進地が、先進的な発想と取り組みにより過疎地の活性化に挑むというコンセプトから、「先進過疎地」を標榜

- ・2018.1：「庄原の人口問題をとことん考える民間会議」設立
- ・2018.10：「民間会議のまとめ」を市役所に提言
- ・2019.1-3：「経産省：社会課題解決創出ワークショップ」、通信会社への訪問、議論、地域でのMaaSの勉強会
- ・2019年度：国土交通省事業（AIデマンドバス）
- ・2020年度：経済産業省・広島県MaaS事業（県大デマンド）
- ・2021年度：広島県MaaS事業（県補助を市が活用した市によるデマンドバス運行）協議会プロパー事業（貨客混載）
- ・2022年度：国土交通省事業（ビッグデータ活用【KLA】）
- ・2023年度：国土交通省事業（共創モデル実証プロジェクト）
- ・2024年度：国土交通省事業（共創・MaaS実証プロジェクト：現在申請中）

→ 地方部で民間主体によるモビリティからの地域活性化プロジェクト（商工会議所が中心に開催）
→ 国の補助事業等を活用しつつ、積極的に活動を継続中

(2)MaaSの取り組み

庄原MaaSステーションプロジェクト



庄原共創P「ヒトとマチの動かし方研究会」(ワークショップ)



客貨混載の取り組み

